



TITLE:

ニュース 法経両学部旧館の立て替えはじまる

AUTHOR(S):

CITATION:

ニュース 法経両学部旧館の立て替えはじまる. 静脩 1971, 7(6): 4-4

ISSUE DATE:

1971-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36640>

RIGHT:

図 書 館 商 議 会 専 門 委 員 会

と き：昭和46年1月27日

〔第12回〕 議題：学内における図書館長の地位

前回にひきつづき、今回も図書館長の問題をテーマとして取りあげたが、今回はとくに法学部杉村敏正教授に出席していただき、行政法の専門家としての立場からの御意見をうかがった。とくに、これまで委員会で討論されてきた諸問題、すなわち、1. 商議会の性格。審議決定機関か、諮問機関か。2. 諮問機関であるとするれば、館長の諮問機関か、総長の諮問機関か。3. 商議会の権限の問題。商議会の決定と、各部局の図書行政との関係。4. 館長と評議会との関係。館長は自動的に評議員になるべきか、等の問題について、杉村教授から、明解な解釈が示された。

これらの解釈の上に立って、いずれの立場をとるかは、行政的に判断すべきことで、今後の検討が必要である。

図 書 館 商 議 会

と き：昭和46年2月27日

議題：次期館長候補者の選考について

穴戸館長が昭和46年3月31日付で停年退官のため、次期館長候補者を選考する商議会が図書館会議室で開催された。その結果、次期館長候補者として、人文科学研究所平岡武夫教授（中国思想専攻）がえられ、総長あて推せんされることになった。附置研究所から図書館長が出るのははじめてである。また、東洋学者として館長にえられたのは第4代羽田享教授について、2人目である。

— ニュース

法経両学部旧館の立て替えはじまる

赤レンガの旧館を取りこわして、2階建の図書閲覧室や8層の書庫をもった新営建物の工事がはじまった。竣工は昭和47年3月頃であるが、その間の両学部図書室関係の変更は次とおりである。

法学部では、閲覧事務室（電 2809）は新館1階西端の教官室に、整理事務室（電 2807、2808）は附属図書館別館1階南室に、文献複写室（電 2821）は同別館1階北室に移転する。なおこの間の私法研究室、公法研究室の図書の貸出しはできなくなった。

経済学部では、従来窓口が2つあった旧洋書の出納事務をすべて経済学部閲覧室（電 2909）で取りあつかうことになった。